

# 取扱説明書

PHONAK  
フォナック

life is on

耳かけ型補聴器 フォナック アンブラ

Phonak Ambra microM  
Phonak Ambra microP  
Phonak Ambra SP



## はじめに

---

このたびはフォナック社の補聴器をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。



ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

また、この取扱説明書は保証書と一緒に大切に保管してください。


## 安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる方や他の方への危害・財産への損害を未然に防止するため、必ずお守り頂くことを下記のように説明しています。

- 表示内容を見逃して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次のように区分し、説明しています。

 危険	この表示がある項目は、「死亡または重症などを負う可能性が想定される」内容です。
 警告	この表示がある項目は、「損害を負う可能性、または物的損傷のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容を次のように表示し、説明しています。

 注意	この表示がある項目はしてはいけない「禁止」の内容です。
--	-----------------------------

## ご使用にあたって

### ⊘ 禁止

- 音量を大きくしすぎないで下さい。
- 騒がしいところでは音量を小さめにするか、長時間使用しないようにしてください。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないようにしてください。
- 補聴器は医療機器ですので、分解や改造はしないでください。
- レントゲン撮影、CTスキャン等の画像診断機器は補聴器に悪影響を及ぼします。これらの機器を用いた撮影を受ける前には補聴器を外し、撮影室の外に置くことをお勧めします。  
またMRIスキャンは強い磁力を用いますので、MRI室に入る前には必ずお外し下さい。
- 過度の湿気や高温な場所は避けて下さい。特に夏場は、窓や車のフロントガラスの近くには置かないようにしてください。
- 補聴器の内部に水が入ると故障する恐れがありますので、水にぬらさないで下さい。（例：お風呂に入るとき）
- 電池は火中に投げ入れないでください。

 警告

- ペットのそばや子どもの手の届くところに保管しないで下さい。万が一、誤って電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師にご相談ください。

## 注意

- 指向性マイクロホンが作動している場合は、主に背後から来る音を抑えます。そのため、装用者の背後に近づく車の音や背後で鳴るクラクション（警告音）が聞こえにくいことがあります。
- 補聴器を使用しない場合は電池を取り出してください。そして湿気を取り除くために電池ホルダーを開けたままの状態乾燥ケースの中に保管してください。
- ご使用になるまでは電池のシールをはがさないでください。ご使用の際にシールをはがし、30秒ほど待ってからご使用ください。
- 使用済みの電池は、各自治体指定の方法により処分をしてください。
- 不要になった補聴器は、各自治体指定の方法により処分をしてください。
- 汗、湿気、皮脂、耳垢、整髪料などが補聴器内部に入ると故障する恐れがありますので、ご使用後はお手入れを行ってください。

## ご使用になる前に

- 補聴器は聞こえを元にもどすものではなく、聴力を補う機器です。
- 使い始めは音量を小さめにして、慣れてきたら徐々に音量を調整してお使いください。
- 補聴器はお客さま専用調整されていますので、他の人に貸したり、他の人の補聴器を装用しないでください。正しく調整されていない補聴器は効果がないばかりか、場合によっては耳を傷めたりする恐れがあります。
- 耳を治療中の方、治療をしたことがある方は主治医にご相談ください。
- 聴力の変化に伴い、補聴器の再調整が必要になる場合がございます。聴力測定を年に一度はお受けになることをお勧めします。

## 注意

下記の項目に該当する場合は、補聴器を使用する前に耳鼻咽喉科医にご相談ください。

- 耳の治療中の方、耳の中や耳の後に痛みまたは炎症がある場合
- 過去90日以内に耳だれがあった場合
- 過去90日以内に突発性または進行性の聴力低下があった場合
- 過去90日以内に左右どちらかの耳に聴力低下があった場合
- 急性または慢性のめまいがある方

下記の項目に該当する場合は、補聴器の使用をすぐに中止し、耳鼻咽喉科医または販売店へご相談ください。

- 耳の皮膚が赤くなったり、かゆみ・湿疹等が出た場合
- 耳だれが出てきた場合
- 耳の治療が必要になった場合
- 耳の聞こえが急に悪くなったと思える場合

# もくじ

各部の名称 .....	10～13
電池の交換方法 .....	14～15
チャイルドロック付電池ホルダー(別売) .....	16
補聴器の使い方	
電源の入れ方／切り方 .....	17
補聴器の装用方法 .....	18～21
音量の調節方法 .....	22～23
プログラムの切り替え方法 .....	23～24
クイックシンク .....	24
ズームコントロール.....	25～27
プログラム設定表.....	28
イーザーフォン .....	29
デュオフォン .....	30～31
ワイヤレスアクセサリー(別売) .....	32～35
FMシステム(別売) .....	36～41
ご使用後のお手入れ方法 .....	42～43
補聴器の保管 .....	44
初めてお使いになる方に.....	45
故障かと思われたときは .....	46
仕様・性能 .....	48～53
アフターサービス.....	54
シンボルマークの説明.....	55

## 各部の名称

### フォナック アンブラ microM+イヤモールドの場合



- ①マイクロホン音口(マイクカバー付)  
(音の入口)
- ②スイッチ
- ③電池ホルダー(電源の入/切機能付)
- ④イヤフック(音の出口)
- ⑤チューブ
- ⑥イヤモールド(別売)

#### 電池サイズ

フォナック アンブラ microM : PR41(312)

## フォナック アンブラ microM+オープン型耳せんの場合



## フォナック アンブラ microM+スリムチップの場合



- ⑦スリムチューブ $\alpha$
- ⑧オープン型耳せん
- ⑨ストッパー

- ⑩スリムチップ(別売)
- ⑪取り出し用テグス

## フォナック アンブラ microP/SP+イヤモールドの場合



- ①マイクロホン音口(マイクカバー付)  
(音の入口)
- ②スイッチ
- ③ボリュームコントロール
- ④電池ホルダー(電源の入/切機能付)
- ⑤イヤフック(音の出口)
- ⑥イヤモールド(別売)

### 電池サイズ

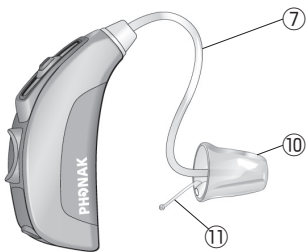
フォナック アンブラ microP : PR48(13)

フォナック アンブラ SP : PR48(13)

## フォナック アンブラ microP/SP+オープン型耳せんの場合



## フォナック アンブラ microP/SP+スリムチップの場合

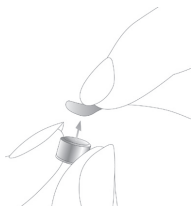


- ⑦スリムチューブ $\alpha$
- ⑧オープン型耳せん
- ⑨ストッパー

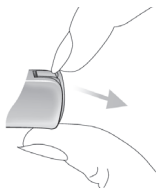
- ⑩スリムチップ(別売)
- ⑪取り出し用テグス

## 電池の交換方法

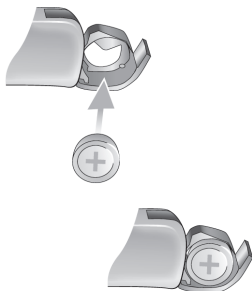
1. 新しい電池の保護シールをはがします。シールが貼ってある側が(+)面です。



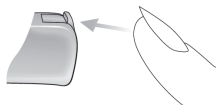
2. 電池ホルダーを開け、使用済みの電池を取り出します。



3. 新しい電池を入れます。電池の(+)面と電池ホルダーの+マークが同じ方向になるようにあわせませます。



4. カチッと閉まるまで、  
電池ホルダーをゆっ  
くり押します。



### ⚠ 注意

- 電池ホルダーは丁寧に扱い、無理な力を加えないでください。
- 電池ホルダーがうまく閉まらない場合には、電池が正しく収納されているか確認してください。電池がプラスマイナス逆向きに収納されている場合、きちんと閉まりません。

#### 電池寿命お知らせ音

電池がなくなりかけると、お知らせ音(ピー、ピー)が鳴りますので、電池を新しいものに交換してください。(電池が使用できなくなる約30分前に鳴りますが、リモコンを使用している場合は短くなるなど補聴器の使用状態によって異なります。)

## チャイルドロック付電池ホルダー(別売)

電池の誤飲などによる危険を防ぐため、電池ホルダーを開かないようにロックすることができます。

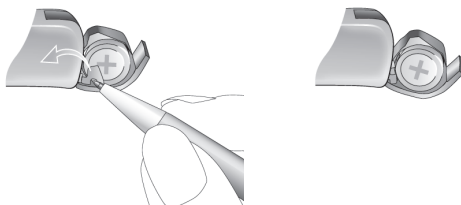
**電池ホルダーをロックするには:**

チャイルドロックがかかる電池ホルダーを閉めると、自動的にロックがかかります。



**電池ホルダーのロックを解除するには:**

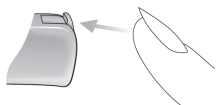
図のように、ペンを使ってタブを動かすと電池が外れるようになります。



# 補聴器の使い方

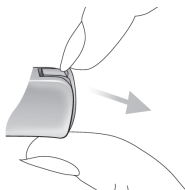
## 電源の入れ方

電池ホルダーを閉める



## 電源の切り方

電池ホルダーを開ける



### ポイント

電源を入れると、補聴器はあらかじめ調節された音量とプログラムに自動的に設定されます。

### ⚠ 注意

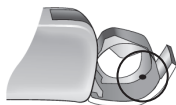
- 電源を入れてから音がでるまで約4秒かかります。スタートアップの遅延が設定されている場合、電源を入れてから約4秒後に一瞬音が出てから、さらに6秒後または12秒後に動作します。

## 装用の前に

左右を色で見分けることができます。

左耳用：青色

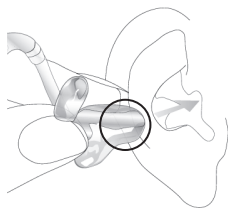
右耳用：赤色



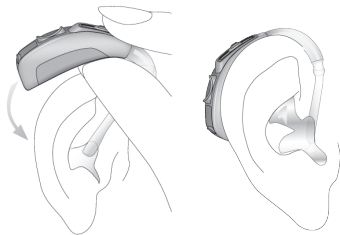
## 補聴器を耳に装用する方法

イヤモールドの場合：

1. 図のようにイヤモールドを持ち、そのまま耳の穴にイヤモールドを近づけます。



2. イヤモールドが完全に収まったら、補聴器本体を耳介の後ろにはめます。



## スリムチューブαの場合

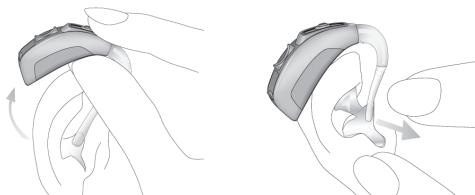
1. 耳の上部に補聴器を  
かけます。



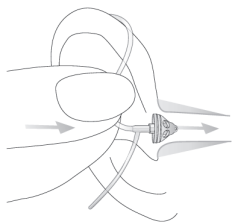
## 補聴器を耳から外す方法

イヤモールドの場合：

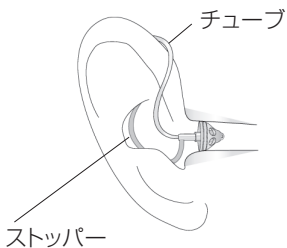
チューブではなくイヤモールドをつかみ、ゆっくり耳から取り出します。



2. チューブを図のように持ち、耳せんをゆっくり押し込みます。(図はオープン型耳せんとなっています。)

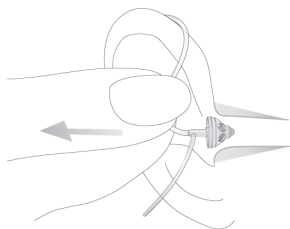


3. チューブのストッパーを図のように耳のくぼみに沿うようにはめます。チューブが耳から浮かないようにをしっかりとはめてください。



## スリムチューブαの場合：

補聴器を耳から外すには、  
チューブの根元をつかみゆっ  
くり耳から取り出します。



## ⚠ 注意

- ストッパーが長い場合は、少し切り取ることも可能です。その際、固定できないほど短くしないように十分気をつけてください。
- 耳せんは、チューブから外れないように作られていますが、万が一耳せんが中に入ってしまった場合には、医療機関にご相談ください。

## フォナック アンブラ microMの音量調節方法

フォナック アンブラ microMを両耳装用の場合は、スイッチかリモコン(別売)でのボリューム調整が可能です。

スイッチで調整する場合、あらかじめ販売店にて設定されている必要があります。

フォナック アンブラ microMを片耳装用の場合は、リモコンでのみボリューム調整が可能になります。

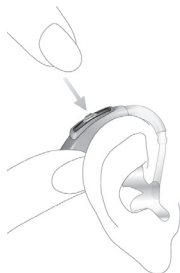
**スイッチによって音量を上げるには：**

右側のフォナック アンブラ  
microMのスイッチを押します。

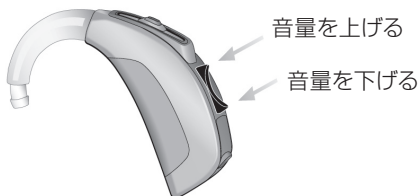


**スイッチによって音量を下げるには：**

左側の右側のフォナック アンブラ  
microMのスイッチを押します。



## フォナック アンブラ microP/SPの音量調節方法



音量を変更すると確認音が1回鳴り、電源を入れた時の音量になると低い確認音(ポツ)が1回鳴ります。音量が最大または最小に達した場合は、確認音が2回(ピポツ)鳴ります。

\*リモコンで音量調節することも可能です。

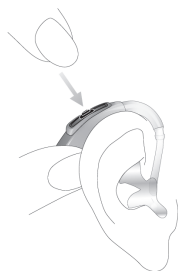
## プログラム切り替え方法

あらかじめマニュアルプログラムを設定している場合、手動で切り替えることが可能です。様々な環境プログラム以外に、電話、ミュートなどのプログラムが設定できます。

スイッチ/プログラムスイッチを押すたびにプログラムが切り替わり、確認音が鳴ります。

\*リモコンでのプログラム切り替えも可能です。

\*ミュート（無音）を選択している場合、音は聞こえませんが、電池は消耗しています。



フォナック アンブラ  
microM



フォナック アンブラ  
microP/SP

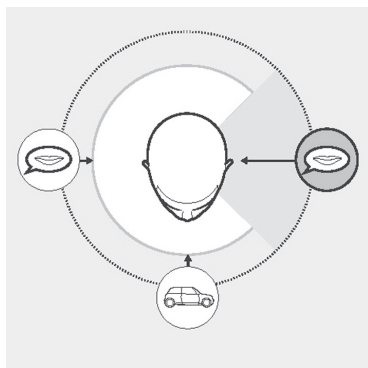
## クイックシンク（両耳装用の場合）

左右のフォナック アンブラ同士が通信を行ない連動する機能です。片方の補聴器のボリュームやプログラムを操作するだけでもう一方の補聴器も同じ動作をします。

## ズームコントロール

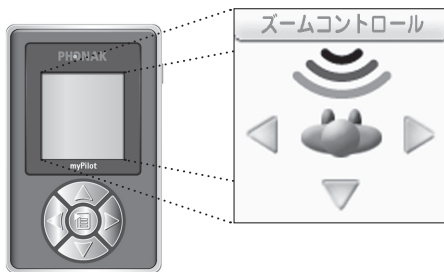
ズームコントロールは、フォナック アンブラを両耳装着される場合に、前後左右にある聴きたい音の方向をご自身で選択できる機能です。例えば、車を運転しているとき、隣の人や後ろの人と会話をするときなど、相手に顔を向けることができないときに便利です。

方向の切り替えはワイヤレス・アクセサリ「マイパイロット」(別売)または、補聴器のプログラムボタンにより行います。



## 1. マイパイロットによる方向の切り替え

まずマイパイロット(別売)のカラーディスプレイにズームコントロール画面を表示させます。ズームコントロール画面を表示するには、マイパイロットのメニューボタンを押し、メニュー画面でズームコントロールを選択します。ダイレクトモード画面で使用している場合は、マイパイロットのボタン◀▶を同時に押し、画面を標準モードに戻してからズームコントロール画面を表示します。詳しくは、マイパイロットの取扱説明書をご参照ください。



ズームコントロール画面が表示されている状態で、マイパイロットの上下左右のボタンを押すことでお好みの方向の音を聞くことができます。

ボタン	切替方向
△	前方向に切り替えます。
◀	左方向に切り替えます。
▶	右方向に切り替えます。
▽	後方向に切り替えます。

## 2. プログラムスイッチによる方向の切り替え

補聴器のプログラムスイッチでズームコントロールの方向を切り替えるには、あらかじめ補聴器を設定しておく必要があります。ダイレクトタッチ機能を使用すれば、希望する方向の補聴器のプログラムスイッチを押すだけでその方向に切り替えることが可能です。プログラムおよびダイレクトタッチ機能の設定については販売店にご相談ください。

### ダイレクトタッチ機能オンの場合

販売店にてプログラムに組み込んだズームコントロールのダイレクトタッチ機能をオンにしておくと、そのプログラムに切り替えた際にプログラムボタンを押した補聴器の方向に切り替わります。ただしこの場合は、左右方向のズームコントロールの使用のみが可能になります。

### ダイレクトタッチ機能オフの場合

販売店にてあらかじめマニュアルプログラム1～5のいずれかにズームコントロールを組み込み、聞きたい方向を設定しておきます。プログラムスイッチを押し、ズームコントロールが組み込まれたプログラムを選択すると、あらかじめ設定された方向に切り替わります。オートマチックプログラムに戻る場合や、他のプログラムに切り替える場合は、適宜プログラムスイッチを押してください。(プログラムの切り替えは、マイパイロットやフォナックパイロットワンでも可能です。)

## プログラム設定表

プログラム	設定内容	確認音 <sup>※1</sup>
自動プログラム	サウンドフローによる 自動切り換え	短いメロディー
プログラム1		“ピ” (・)
プログラム2		“ピピ” (・・)
プログラム3		“ピピピ” (・・・)
プログラム4		“ピポ” (・・)
プログラム5		“ピポポ” (・・・)
イージーフォン <sup>※2</sup>		“ピポ” (・・)
イージーFM <sup>※2</sup>		“ピポ” (・・)
ミュート <sup>※3</sup>		確認音なし

※1 確認音は消すことも可能です。

※2 フォナック アンブラ microMは対応していません。

※3 ミュート (無音)を選択している場合、音は聞こえませんが、電池は消耗しています。

# イージーフォン

イージーフォンは、受話器を耳にあてると自動的に電話プログラムに切り替わる機能です。

切り替わる時、お知らせ音(ピポ)が鳴ります。

受話器を耳から離すと、数秒後に元のプログラムに自動的に戻ります。

※フォナック アンブラ microMIは使用できません

## イージーフォン用の磁石を取り付ける方法

受話器をきれいにし、図のような位置に専用の磁石を付属の両面テープで貼ります。



### ⚠ 注意

- 磁石で受話器の音が出る部分を覆わないようにしてください。受話器を近づけても切り替わらない場合は、磁石の位置を変更してください。
- 磁石は子どもの手の届かないところに保管してください。もし誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。
- 磁石は、クレジットカードなどの磁気のあるものに影響しますので30cm以上離してください。

# デュオフォン

デュオフォンは、電話プログラムを使用中に、左右の補聴器から同じ音を出す機能です。例えば、右側で電話の音声を補聴器で聞いている場合でも、左側の補聴器からも同じ音声が聞こえます。両耳で聞くことにより片耳の場合よりも電話の音声を聞き取りやすくなります。

イージーフォンと併用してご使用の場合は、受話器を補聴器に近づけると自動で切り替わります。

## 1. イージーフォンを併用する場合の操作

電話する側	操作方法
右側	磁石のついた受話器に右側の補聴器を近づけてイージーフォンに切り替えます。 イージーフォンが作動している間は、電話の音声が左側の補聴器にも同時に送信されます。
左側	磁石のついた受話器に左側の補聴器を近づけてイージーフォンに切り替えます。 イージーフォンが作動している間は、電話の音声が右側の補聴器にも同時に送信されます。

## 2. イージーフォンを併用しない場合の操作

販売店にて、あらかじめ補聴器に設定したプログラム内容により操作方法が異なります。以下の設定1～3の電話プログラムの設定が可能です。どの設定を使用するかは販売店にご相談ください。

設定	ダイレクトタッチ*	電話する側	操作方法
1	オン	右側	右側の補聴器のプログラムスイッチで電話プログラムに切り替えます。右の電話の音声と同時に左側の補聴器に送信されます。
		左側	左側の補聴器のプログラムスイッチで電話プログラムに切り替えます。電話の音声と同時に右側の補聴器に送信されます。
2	オフ	右側	左右どちらの補聴器のプログラムスイッチを押しても、電話プログラム(右側設定)に切り替えた場合は、右側から入る電話の音声と同時に左側の補聴器に送信されます。
3	オフ	左側	左右どちらの補聴器のプログラムスイッチを押しても、電話プログラム(左側設定)に切り替えた場合は、左側から入る電話の音声と同時に右側の補聴器に送信されます。

\*ダイレクトタッチは、電話を聞き取りたい側のプログラムスイッチを押せば切り替えられる便利な機能です。

## ワイヤレスアクセサリ(別売)

### マイパイロット

マイパイロットは双方向通信機能を持ったリモコンです。  
次のような機能があります。

- ボリューム操作
- プログラム切り替え
- 日付、時間表示
- マイパイロットの電池残量表示
- 補聴器の使用状態表示  
(ボリュームの位置、プログラム、電池残量)
- アラーム
- スームコントロール操作(両耳装用のみ)

詳しくはマイパイロットの取扱説明書をご覧ください。



図のようにマイパイロット画面を見ながら操作してください。

リモコン操作距離  
約50cm 以内



## フォナック パイロットワン

フォナック パイロットワンは、補聴器のボリューム調整やプログラム切り替えができるリモコンです。

両耳にフォナック パイロットワンが使える補聴器を装着している場合、両耳同時に動きます。リモコン操作距離は、50cm 以内です。詳しくは、フォナック パイロットワンの取扱説明書をご参照ください。



## フォナック マイコム

フォナック マイコムは、補聴器と携帯電話やオーディオ機器、FMシステムなどを接続する機器です。

### 【Bluetooth接続】

携帯音楽プレーヤー、携帯電話、パソコン、テレビ等のBluetoothアダプタからの信号を受信し補聴器へ送ります。



### 【オーディオケーブル接続】

オーディオケーブルを使って、直接携帯音楽プレーヤーなどに接続できます。

### 【FMシステム】

ユニバーサルタイプのFM受信器 (MLxi, 別売) を接続することができます。



詳しくはフォナック マイコムの取扱説明書をご覧ください。

## アイビュー

アイビューは、学校の先生や保護者の方が子どもの装用状態を確認することができる補聴器読み取り専用のアクセサリーです。読み取りボタンを1回押すだけで、補聴器のプログラムの状態・電池残量・ボリュームの位置がカラーディスプレイ上に表示されます。



詳しくはアイビューの取扱説明書をご覧ください。

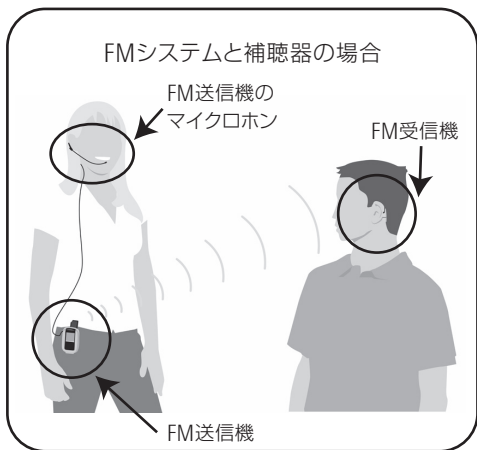
### ⚠ 注意

- 電子機器の使用が禁止されている場所（例：飛行機内など）ではワイヤレスアクセサリーは使用しないでください。

## FMシステム（別売）

話し手と聞き手の距離が離れた場所や周囲が騒がしい場所など、補聴器だけでは聞き取りが困難な環境があります。

FMシステムは話し手の声をマイクロホンでキャッチし、FM電波（169MHz 帯）によって聞き手に快適な聞こえを提供する補聴援助システムです。FMシステムは送信機と受信機が必要です。FMシステムの詳細についてはFMシステムのカタログをご覧ください。



## FM送信機

製品名	インスパイロ inspiro	ズーム・リンク・プラス ZoomLink+	イージー・リンク・プラス EasyLink+
写真			
特徴	<p>学校生活用にデザインされた送信機です。言語獲得中の子どもに最適です。日本語表示で操作も簡単です。</p>	<p>ビジネスやプライベートで使用できるおとな向け送信機です。話し手の首にかけて使用します。指向性の切り替えができるマイクホンを搭載しています。</p>	<p>ビジネスやプライベートで使用できるおとな向け送信機です。話し手の首にかけて使用します。ボタン1つで扱え、操作が簡単です。</p>

## FM受信機

製品名	エム・エル・エックス・アイ MLxi	エム・エル・サーティン・アイ ML13i	マイ・リンク・プラス MyLink+
写真			
特徴	<p>別途、オーディオシュー(AS13)が必要です。マイコムとの併用も可能です。</p> 	<p>フォナック補聴器専用の一体型の受信機です。補聴器と一体型なので紛失の心配がありません。オーディオシューは不要です。</p> 	<p>Tコイルを利用してFMシステムが使用できる首かけ型受信機です。</p>

※フォナック アンブラ microM にはマイコム + MLxi の組み合わせ以外使用できません。

## FMオーディオチューンの取り付け、取り外し

FM受信機の MLxi を使用するためにはオーディオチューンが必要です。フォナックアンブレラ microP/SP には AS13 というオーディオチューンを使用します。

オーディオチューン (AS13) を使用する場合に以下の手順で取り付け、取り外しを行います。

※FMシステムを使用しないときに受信機、オーディオチューンを取り外す必要はありません

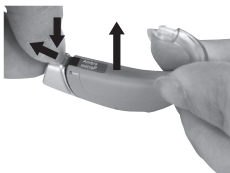
### オーディオチューン (AS13) の取り付け：

AS13 を押し込み電池ホルダーの溝に沿ってスライドさせます。



### オーディオチューン (AS13) の取り外し：

AS13 のつまみを押し下げながら補聴器をスライドさせます。



## FMシステム使用手順 (MLxi, ML13i)

切り替え方法	プログラムスイッチ	イージーFM機能
	手動切り替え	自動切り替え
手順	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. FM用プログラムを補聴器に設定します。</li> <li>2. 補聴器のプログラムスイッチでFM用プログラムを選択します。</li> </ol> <p>プログラムスイッチ</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イージーFMの設定を有効にします。</li> <li>2. 補聴器の電源をオンにして、オートマチックモードにします。</li> <li>3. FM送信機から音声を入力します。</li> <li>4. FM受信機が音声を認識すると自動的にFMプログラム「FM+M」に切り替わります。</li> </ol>

## FMシステム使用手順 (MyLink+)

切り替え方法	MyLink+
手順	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Tコイル用プログラムを補聴器に設定します。</li> <li>2. 補聴器のプログラムスイッチでTコイル用プログラムを選択します。</li> <li>3. MyLink+の電源をオンにします。</li> </ol>

## イージーFM

- イージーFM機能を有効にすると、次の条件下で自動でイージーFM専用のプログラム「FM+M」<sup>エフ・エム・プラス・エム</sup>に切り替わります。
  - FM送信機とFM受信機がFMシステム利用圏内(約15m 以内)にあること
  - FM送信機とFM受信機のチャンネルが同期されていること
  - 補聴器のプログラムがオートマッチックモードであること
  - 送信機のマイクロホンに音声が入力されること
- FM送信機からの音声の入力をストップ(FM送信機の電源オフも含む)し、しばらくすると自動でイージーFM専用のプログラムからオートマッチックモードに切り替わります。

※MyLink+を受信機として使用している場合は、イージーFMは使用できません。  
フォナック アンブラ microMIにはイージーFMは搭載されていません。

### 注意

---

- 電子機器の使用が禁止されている場所(例：飛行機内など)ではFMシステムは使用しないでください。

## ご使用後のお手入れ方法

補聴器を長くお使いいただくために、日ごろからのお手入れをお勧めします。

1. 補聴器本体から電池を取り出します。
2. ティッシュペーパーや柔らかい布で、補聴器本体と電池についた汗や汚れを拭き取ります。
3. 電池ホルダーの中も湿気があるとさびやすいため、綿棒などで水分を拭き取ります。
4. 耳せんやイヤモールドが耳あか等でつまっている場合は、ブラシなどで取り除きます。

### マイクカバー

マイクカバーは、フォナック アンブラの高機能マイクを埃から保護するように設計されております。

マイクカバーなしでフォナック アンブラを使用されることはご遠慮ください。マイクカバーは必要に応じて交換できます。

お買い求めの販売店にお尋ねください。

## ⚠ 注意

---

- 補聴器をお手入れする際に、家庭用洗剤（石鹼、洗剤粉等）は絶対にご使用にならないでください。
- チューブに水滴が残る危険があるため、チューブとオープン型耳せんを水で洗ったり、水中に入れたりしないようにしてください。
- 水滴がチューブに残っていると、音がでない、または補聴器の電気部分が壊れる恐れがあります。
- チューブとオープン型耳せんは3ヶ月に1回のペースで交換してください。また、チューブが硬くなったり、もろくなってきた場合はすぐに交換してください。
- オープン型耳せんは販売店でのみ交換できます。耳に装着している時にチューブからオープン型耳せんを外さないでください。耳を傷つける恐れがあります。

## 補聴器の保管

### 通常の方法：

(乾燥ケースを使用される場合)

電池ホルダーを開けたまま補聴器を乾燥ケースに入れて下さい。

### 携帯する場合：

電池ホルダーを開けたまま補聴器を専用ケースに入れてください。

長期間補聴器をご使用にならない場合は電池を取り外しておいてください。

### 注意

---

- 補聴器から必ず電池を取り出してください。  
補聴器から取り出した電池は乾燥ケースにいれないようにしてください。

# 初めてお使いになる方に

## 第一段階

初めは静かな家の中等で使用し、補聴器をつけることに慣れて下さい。最初は自分の声に違和感がありますが、本などを声に出して読んだりして違和感がなくなるまで練習します。練習は10分ほどから始めて徐々に長くしますが、疲れたらすぐ休んでください。

## 第二段階

静かな部屋で、身近な人と一対一で話す練習をしましょう。

## 第三段階

複数の身近な人と話をする練習をします。どの人が話をしているか聞き分けてみましょう。

## 第四段階

慣れてきたら、外で聞く練習をします。

## 注意

---

- 補聴器の音が小さかったり、周囲の音が大きく感じたら販売店にご相談ください。補聴器の再調整が必要となります。

## 故障かと思われたときは

補聴器が聞こえづらくなったときは、まず下記のようにお調べください。

1 電池がなくなっていないですか？

はい

新しい電池に交換してください。  
(14～15ページ)

いいえ

2 音の出口に耳垢ががつまっている、もしくはゴミががつまっていませんか？

はい

クリーニングしてください。  
(42～43ページ)

いいえ

3 正しく耳に入っていますか？

いいえ

きちんと耳に入れなおしてください。  
(18～21ページ)

はい

販売店へご相談ください。



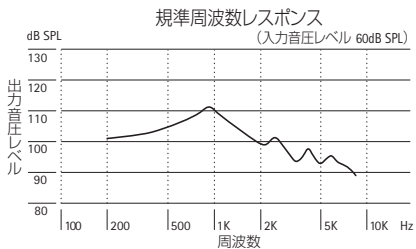
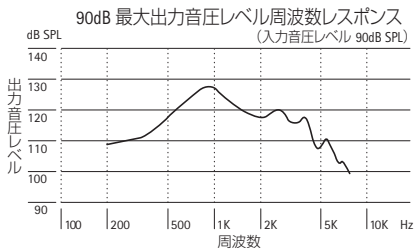
## 仕様・性能 (フォナック アンブラ microM)

※本データは JIS C 5512 : 2000 の密閉形擬似耳により、スリムチューブ  $\alpha$  で測定・表示してあります。

適応聴力範囲	軽中
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得	48 dB $\pm$ 5 dB
90dB 最大出力音圧レベル	120 dB $\pm$ 5 dB (1600Hz) 132 dB SPL 以下 (ピーク値)
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz 3.0% 以下 800 Hz 3.0% 以下 1600 Hz 3.0% 以下
電池の電流	1.60 mA 以下
使用電池	PR41 (312)
電池寿命	100~145時間
利得調整器	可変幅 $\pm$ 6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 $\pm$ 10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 $-$ 20 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階

※本カタログに掲載された電池寿命: JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。

フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況・気温・温度等の環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。



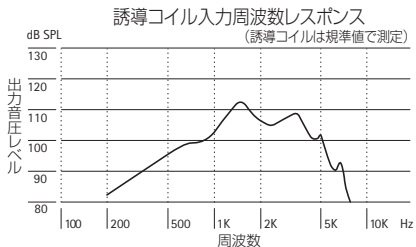
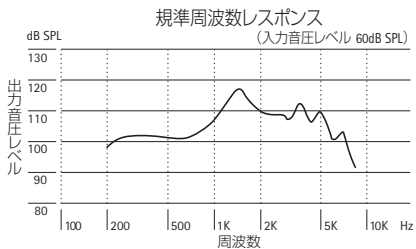
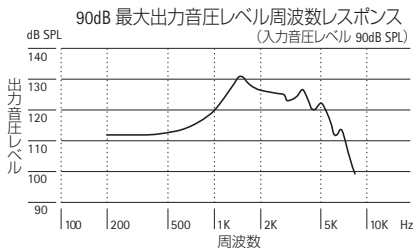
## 仕様・性能 (フォナック アンブラ microP)

※本データは JIS C 5512 : 2000 の密閉形擬似耳により、イヤフック HE10 680 で測定・表示してあります。

適応聴力範囲	軽中高
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得	62 dB $\pm$ 5 dB
90dB 最大出力 音圧レベル	130 dB $\pm$ 5 dB (1600Hz) 136 dB SPL 以下 (ピーク値)
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz 4.0% 以下 800 Hz 3.0% 以下 1600 Hz 3.0% 以下
電池の電流	1.80 mA 以下
使用電池	PR48 (13)
電池寿命	130~200時間
誘導コイル感度	93 dB SPL $\pm$ 6 dB (磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大)
利得調整器	可変幅 $\pm$ 6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 $\pm$ 10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 $-$ 20 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階

※本カタログに掲載された電池寿命: JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。

フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況・気温・温度等の環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。



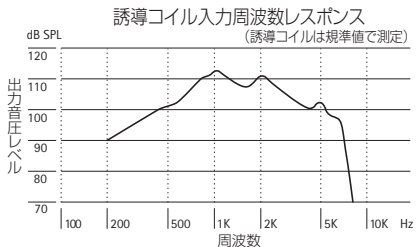
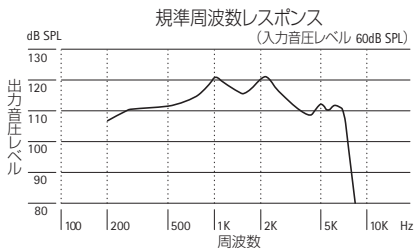
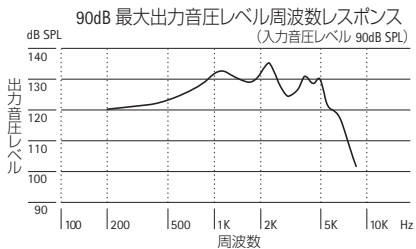
## 仕様・性能 (フォナック アンブラ SP)

※本データは JIS C 5512 : 2000 の密閉形擬似耳により、イヤフック HE10 680 で測定・表示してあります。

適応聴力範囲	中高重
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得	67 dB $\pm$ 5 dB
90dB 最大出力 音圧レベル	130 dB $\pm$ 5 dB (1600Hz) 140 dB SPL 以下 (ピーク値)
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz 4.0% 以下 800 Hz 3.0% 以下 1600 Hz 3.0% 以下
電池の電流	1.80 mA 以下
使用電池	PR48 (13)
電池寿命	130~200時間
誘導コイル感度	94 dB SPL $\pm$ 6 dB (磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大)
利得調整器	可変幅 $\pm$ 6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 $\pm$ 10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 $-$ 20 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階

※本カタログに掲載された電池寿命: JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。

フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況・気温・温度等の環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。



# アフターサービス

## 1. 保証書（別途添付）

必ず「販売店名」、「お買い上げ日」、などの記載をお確かめになり、大切に保管してください。

## 2. 修理について

保証書を一緒に販売店へお持ちください。保証書に記載された内容に応じて修理いたします。

## 3. その他

アフターサービスなどについてのご不明な点は、お求めの販売店までお問い合わせください。

この取扱説明書の内容は2011年2月現在のものです。各製品の仕様は予告なく変更される場合がございます。

※この補聴器は耳を保護する目的で出力 125dB SPL 以下、利得 30dB 以下に設定し出荷いたしております。

## シンボルマークの説明

---



CE 記号は、アクセサリ類を含む製品が医療機器指示文 93/42/EEC とR&TTE 指示文199/5/EC のラジオと通信機器・送信機の基準を満たしていることを示しています。CE 記号に続く番号は、フォナック社に対し指導した公認機関コードを表します。

---



この記号は、取扱説明書に載っている製品説明がEN60601-1 のタイプBF に則っていることを表します。

---



この記号は、補聴器をされる人が取扱説明書に書いてある内容を読み理解してもらうことが大事であることを示しています。

---



ゴミ箱に×印の記号は、通常と異なるごみ処理が要求される可能性があることを意味します。処分される際はお住まいの自治体が定める方法に従ってください。

---

販売店名

製造販売業

フォナック・ジャパン株式会社

〒141-0031

東京都品川区西五反田5-2-4 レキシントン・プラザ西五反田

TEL 0120-06-4079(お客様相談窓口)

FAX 0120-23-4080

[www.phonak.jp](http://www.phonak.jp)

許可番号 13B2X10021

認証番号 222AABZX00213000